柳髮新話

浮世床

初編 一

號	一	第
一組	自 至	全部
四	一 四	十
冊	卷 卷	冊

14
3157
42(1)

挿髪新話自序

14
3157
92
1

天も短く。すも長あれども。各物ふ
ようの用益利なの徳あり理。春山
乃剃頭店。　日本髪結家。和漢
噪のちゝよりみく。人情さべく同
じけまつど。世ゝ[illegible]

芥子坊主はちもぐ薄くて。雅ぶると喜ぶ
毛唐人。媽媽掉乃毛ぐ厚くて俗
ぞくと呼ぶる日本人。おそろしくの味
薄なる学問。漏ぐ日も武儒先生隣の
糟粕ぢ唐裏買ふ。大清中華ぢを
蓋の奈ら。いくばく郷ぢ貨を

算ぐ。他の國ぢ大きぶ自慢。唐詩の
白髮三千丈。廣いぢ像て個のめく。髪
髮ぢもぐ生ぐ。ぢくはぢ。ぢくぢ
なぢ。ぢ國字解。いるに人ぢ大きくいふ
とぐ。大体程も長ぐ。額の一丈が
一尺で眉間尺ぐ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ

四冊で国子寮教授の先生
と稱ふを跡止めず其傍の國
学者は在けるが。彼髪長媛を引
出さんと。我大御國の古事来歴。お
市が髪髪金山と七巻ひらひら
はらはら。童謡を考へ論ふ

教授の耳。聽耳を傾け居る
流石は雄き日本心。吾皇國の
国風を立て生るもの。こゝ孤。
考へ出る癖あり。国学大人。亦
いとふ。「かゝるどん」髮結爲の化
まつ。ふめてされと「ひらどふる」

を羊ち。このことをすくいふるも。稍〻
其ほとゝぎすに。例の漢籍み
ゆゝ説欤。今按ずるに。こを日なり。
日髪小結ふ事。搔る物ぞ。ほを月の
下略。田是ハ月完小笛置故なり。備
又〻を是如何。其時先生世も

騒ぐぞ。チト仮字いまゝ遠ぐも。日髪月完
の容多〻。朝〻ら晩まで立續けふ
結〻ふ故。時の無い者を時持ふなる。
これ小ゆくひ〻ぢなれ〻。又一説ふ。
業の点の字といふ。油ぐ〻けふ多ふ
想ふべ。稍〻ハ是濁点。其濁と

ピヨイ〻ぢ字なんぞ。ぢてで
ごんさぬ意味深も有。お考。由壹
人の三十二乳。名て解あ〻所が。
浮世者人情浮世床。百人會巴バ
面擂多妖髪乃形人ち風。
樂屋銀杏ち長あ江。蓮懸本田

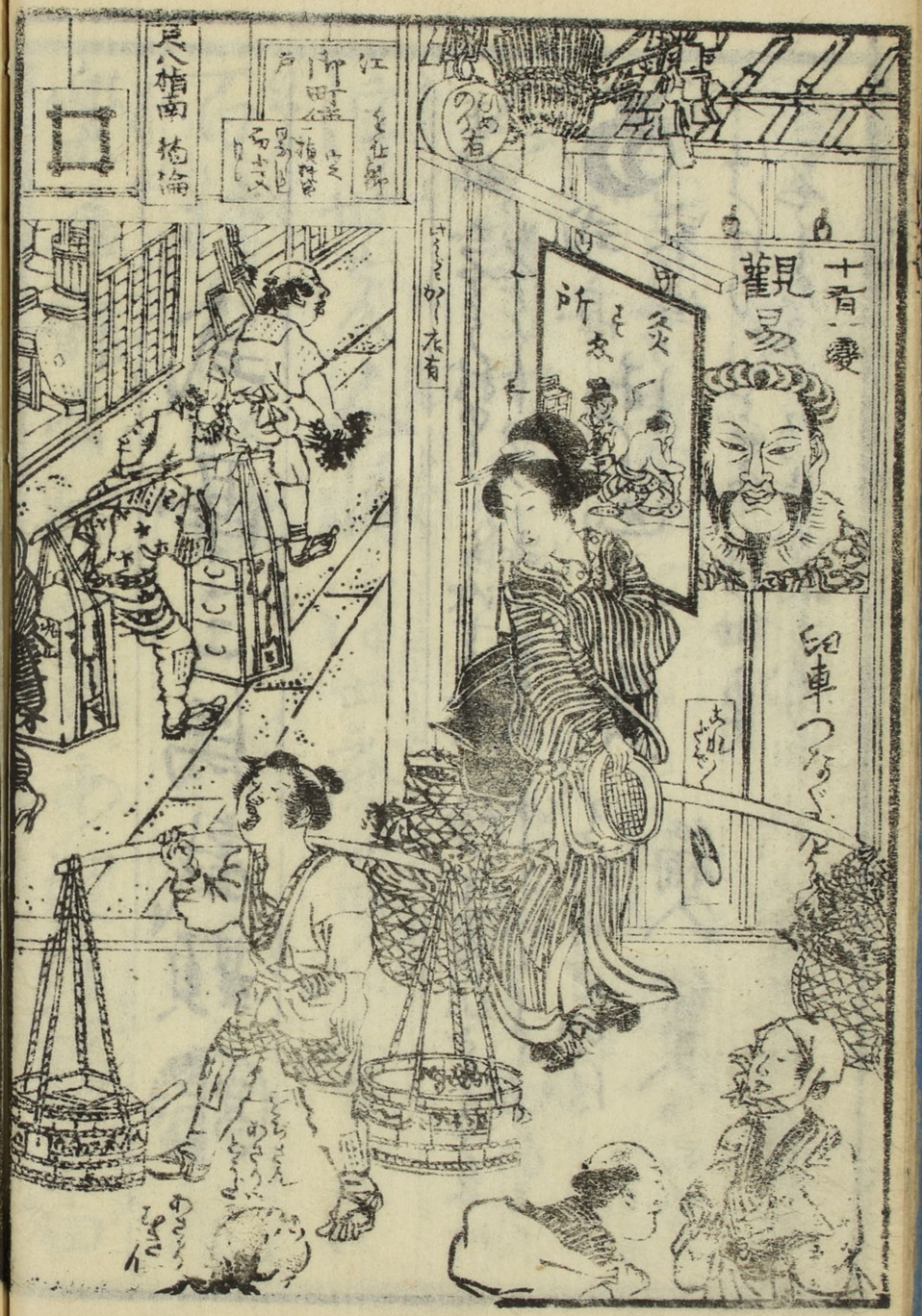
式亭三馬戯題

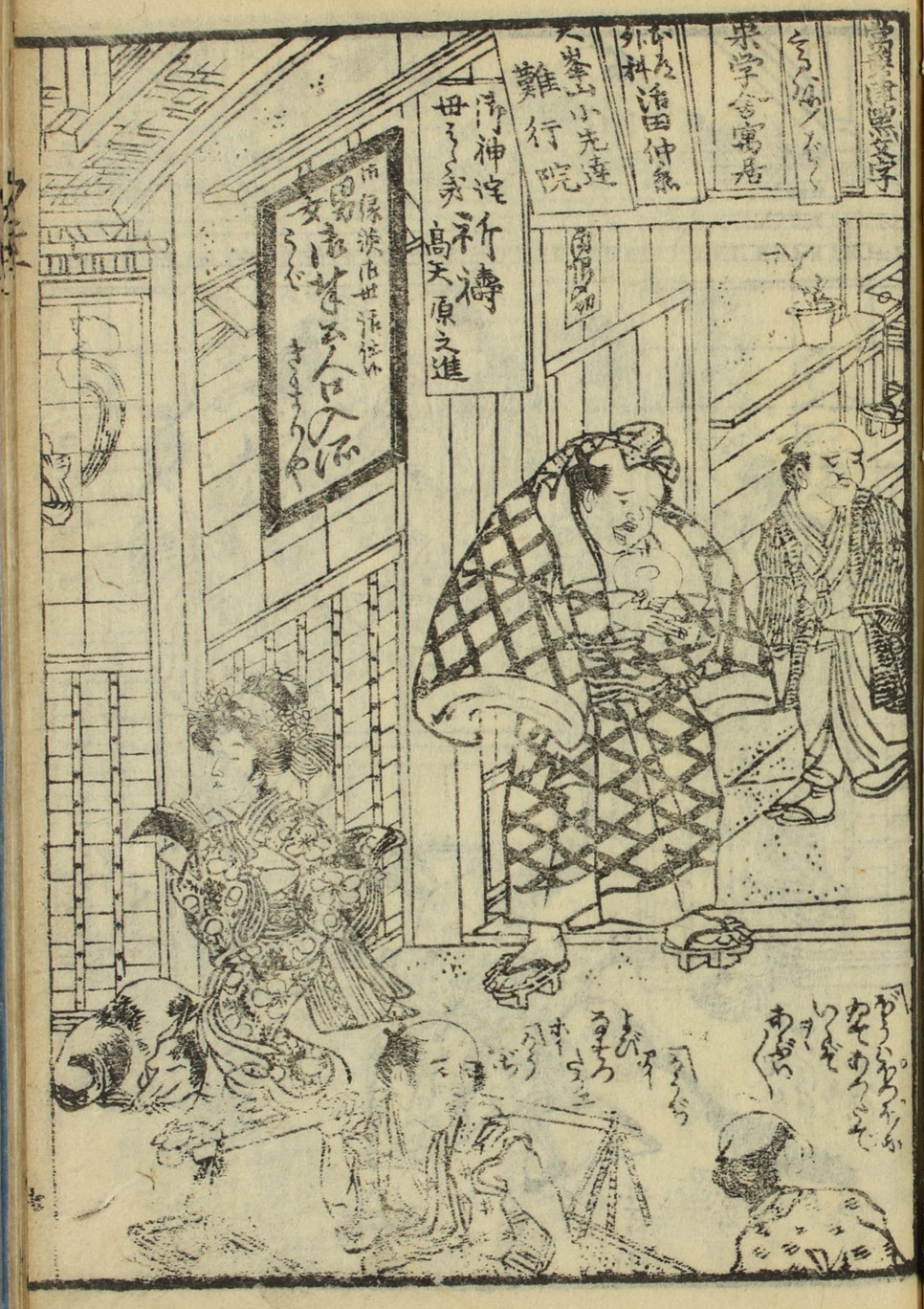
正銘 ちぎ〻ぢのう ちぎ〻ぢいろ

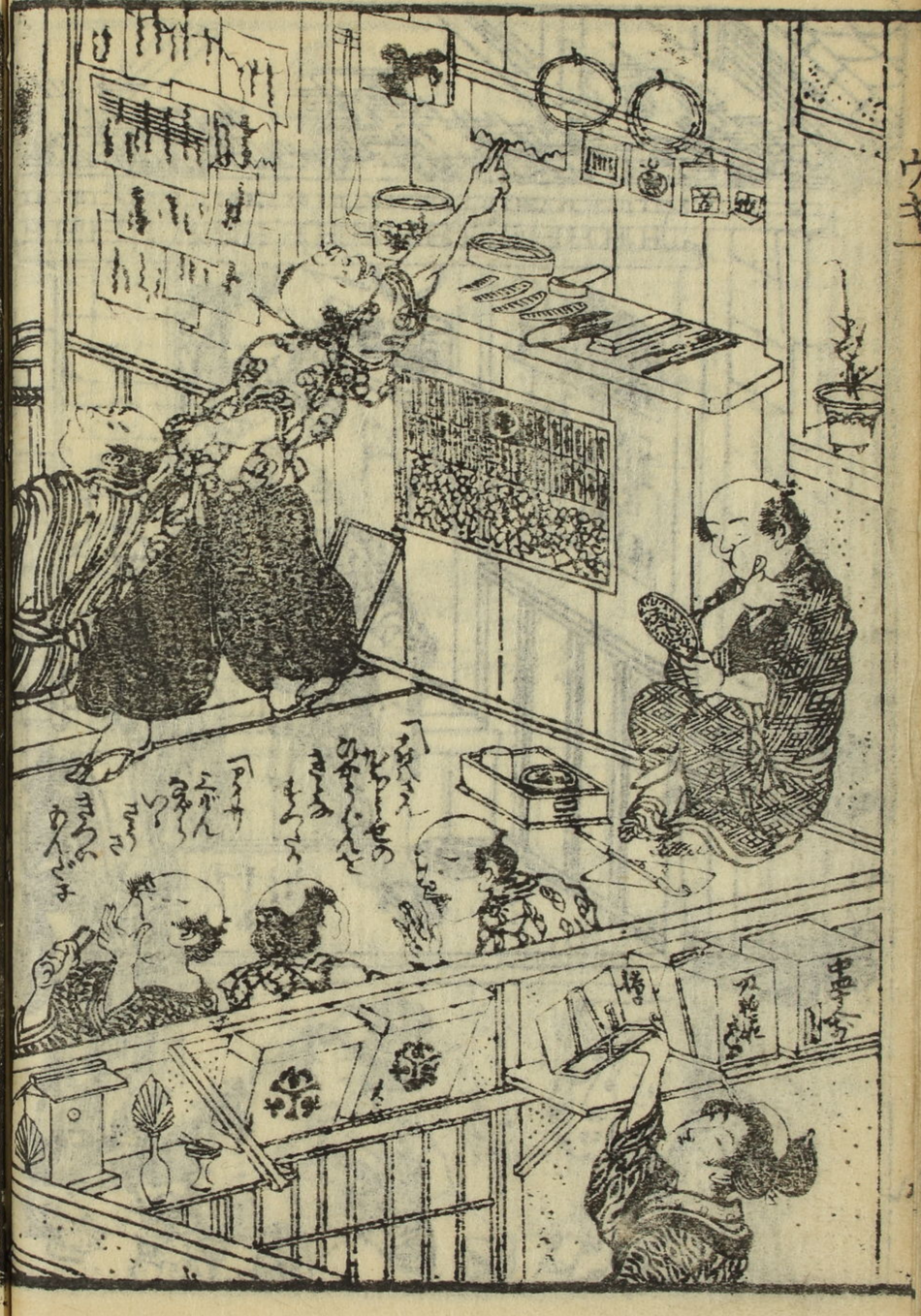
立次せう賣出し不申 砂と月ひざ〻の多は中ふい〻味ひ〻ちるらざかふ〻

ち 式亭 家傳 内薬 はけ刷ひとせず極細めて いとも〻なり乃ち〻〻〻

箱へ袋入 代二十二文 代五拾文


十有二爻
觀易
泥車つくり


祈禱
高天原之進



○當冐年新版中形繪入讀本　三馬戯作

田舍芝居忠臣蔵　初編二冊　○好古愚凝録　三冊
諢話浮世風呂四編　男湯三冊　敵討頑癡氣傳一冊
人間萬事虚誕計　初編一冊　○古今童謡考　三冊
大千世界樂屋探　初編一冊　○江戸畧人傳　五冊
四十八癖二編　一冊　○江戸鹿夢短才圖會三冊
三芝居客者評判記　残編三冊　○馬鹿流行草　二冊
素人芝居正本仕立　初編二冊　○風俗夢物語　五冊
古今百馬鹿　初編一冊
人相酔狂集　俗云百はら　三冊　一盃綺言　初編一冊

右の内○印あるは絶版

柳髪新話浮世床初編　巻之上

東京　戯作者　式亭三馬　戯編

大道直して髪結床必ず十字街にあるが中にも浮世風呂に譬わる家なり。浮世床と名を稱て連檣の流髪舗間口二間に建列ねる腰高の油障子。油でにも粘とる程も浮世と書たる筆法なり。利を所に飛帛と分て。鍾馗と中くん鶴とは提燈屋の永字八法其一方へ大長永

路次口況ひろえろ。且入口の模様をいろ〳〵丈峰山はト
懺悔〳〵の梵天ハ雨ふ洒落てもハ丹精と遺し。小松川の
大東賈冬菜〳〵の番ハ霜ゆもまけぬ二掛直をのふ〳〵と。
さ袋ども不知半ふ價ハ元三文嘘八百狂庵口の口入
所そ。縁談の世話印判の墨。孰と孰と地口のおとく。
清町便小使無用孰と孰と謬誤ふ〳〵ふ〳〵し。尺蠖の
屈めふハ伸んが為の九天二間ふ。寓舎と書ふる宋朝
様そ。當世風の小儒先生。渇しても盗泉の水屋ハ汲
せず。勝毋の里ふあふなくも。親子宣嘩の儀況移ふとハ。
易ふ所謂山雷頤の卦象と中たほ石やさんが十有八
変と筆太にえちふせふ。轉宅の數をいくる狩本道
外科と割て書ふるデモ医者の表れハ。和様ふ匙頭ふも
想ふれ。造作附賣居ありとへ〳〵ふる張紙ハ大屋
さんの書法正傳。さそぶに律義ハ想像をね。炙とる所
の招牌ハ些〳〵左り〳〵曲ア。ひめのり有の標識ハ究ふ圓〳〵
或ハ四角の犬這入或ハ三角の竹子板。ひくく三弦の稽古所

めれば。いろ〻人の指南所。士農工商混雜て。八百萬の相
借家。神道者ハ店賃の高天原ふ三十日の大祓ハ苦ふ
病。釋氏ハ如是我聞長家並の定規を守ると。差覗く
一棟ハ。げふも長くの浪人者。病昔書の指揮と路次
版と倶ふ踏外して。より。牡ゝ生の松。高砂波と
ゝ。ゝ温婆の名き人。ゝふ。鉢植ハ松ハ。ゝ
撫て。ふ業の齡。ゝ。戸揚の端ゝ。代ゝ経ね
らん。栄枯貧福さ。ぐゝる中ふも。楽隠居と。ゝ

老人。衣羽織ゝ置ひ巾して大路ゝ出まゝ。浮世床の
門首ふ停立。▲トン〻〻トたきゝ。サア〻〻起〻〻。遅ぜ
ゝ。めてゝも。朝寝も。程がめゝと物ぶ。髪結床とゝ
ゝ早く起る。ぶゝ馬鹿〻〻。ヨイ。貧ゝこし。貧さん
ゝ。奥の方にて主人。ハイ〻〻。▲サア起〻〻
下剤ハ。留や。紀伊〻。ヤイ。ア〻べ〻ふぼうめぶ。熟方ぶ床坊ぶ
ゝのの。浮長ぶ。濃ハトつぶ。ゝふ貧ふの。言
■ワツト。ゝ。■ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。

きっとろと思と仇こへ付るもぐ「紙つくら思ることらぶざり
ません。とちへ紙むくってすふ紙へ隠居さんとそ病後なる
から秋の明るのと紙兼なるそれど。つんちふへ寝こうち
でうりが今の洗濯ぐア「ねこいふが口功者な。今の洗濯
ろりへ弾の洗濯でも古ろ。紺縮緬ゝ緋縮緬でも古ろふいふ
御の紙へ白木綿が今流ゝる茶返しのやうな色ゝ表へ
うぐく干ふ。どうくと群集とる松ふぐ。そそてぐ着とる。
エてきこと紙へ「えきーいりのさ「コレまへ紙ぐ松ふぐ

記紙へ。塔の明紙へ。めんまり夫婦中の紙ゝ
りのぐ。山城の国ゝて頭二ッある子とうひとまりの
さうる身で産てゝるぐらふ。いの又かしもくぐ。コ
早く記なせへと云へ「隠居さんまへ苦労をるぐ紙
「ちがとるよ。老と物るは苦労にうへこ留。そそ
きうくく掃て湯を湧して立きや。おれれ切て身て剃
ドりと湯へ「ちへ這入のそ「ー」ぐ身てもおれが一番ゝ
外の者と先へ出とる。「生そりく「それでもおへさん宴

[illegible]

[illegible]

[illegible]

「モシ〳〵」「すんざ[illegible]」「[illegible]」

[illegible]

頭巾と冠つてたらつらい「ア[illegible]」

[illegible]

たらつらつらと出ー「[illegible]」

そゝじて待つ[illegible]

たを

[illegible]

風俗も又かゝあはぐき歯、▲

[illegible]

うゝこの二三日ハ仕るゆゝさうぢ。

社それど。へシ。人とはけゆーた。先一昨日。幽夫松が而ハ葬れ

[illegible]

えてとよ。中附とよこ〜と女よトもどで寄ってゆうり屋。そーてゆうぶと「時るの脱皮」ぶんこと。そうとこと山の神めェ。流球芋まら一本十六文宛もちぐいとゆう角と二本生ちやァぐでらきるりに猫ぐらよ不ゆうちりらぐいてギウの音も生きも猫へぶぐ。此方が不始末とゆうりんぐうら。死と嘘とうんるもうにだァまう居ぐらしべ。脊日の性実ぢやァ和んめ〜。実ぞと思うさうで日ぢの猫ちぐと一時ぶ寄ちやァぐんで。小言のいの。へンぶ。ぶんて十二文ぶてと

並やァぐんぐ。人ぶ性けもーぐ。社福の神ぢやァ猫へうァ〜〜そいうん小言八百に利と食ぐとゆう酒義ぶの。ぢ色ぢ長ぐ居ぐさんぶ。息子株ぢやァめるめん。流せば迎も行ぶめぐんる。ぐまぐ又ぢんの麦ぐぶ。尻の掃除紙ーて呉れる親ぶめぐと。いふりんぢやァ色。ぐぶの詰りぐ已の身ぶ痛〜痒〜だうきうぢやァ猫へ。おめぐッぢらやァ猫ぶ分って居ぐぶぢきぐ猫者ぶぜ「そァやァ二文も美紙ぶの。一俵酒ぶ悪いぐぶ。ぐ〜可生きうに酒よ飲をるるぢやァ猫へぶ。い一行

きあると。ぢ手ぬ。浮てまるうんどうら。指とうとうァス。ッレ
あく日ハ天窓が重てくとうお頭痛ゞ遊ゞとうこゝゞん
流とうノようこ已ゞ内でも敷居ゞ高くなるといふうんどう。
社へ一す切ふれるも二す斬ふれるとこと奴ゞそ　こう
三すとうるゆゞァ。アモウたまふ紙くぜ。酒へ弱えっうら頭
酒ゞ「ゞ」ゞさ「い」ゞのよ「よく」嘲もめとふ紙ぜるァ。金思羅
さゆも成田さゆも実成だまし。うもれ紙く「そり」やァ
其ゞ者よ。神佛へうく通「ゞ」ゞ。又だまたうせさゆト。殺ゞ

清紙くうら嘲もめて紙くのさ「嘘」ァ紙くよ。よう「く」お潰波
ゞ「ゞ」ゞこゞコウ湯へ切ようう「ゞ」ゞ「ゞ」ゞ「ゞ」ゞ「ゞ」ゞ。ちんゆ何を
と。ゆ紙くう蜂の蜂郎ハ「ゞ」ゞ「ゞ」ゞ「ゞ」ゞ。あの蜂郎ァ達入
のれ人猪ゞぜ。ゞ有ようゞ面の皮ァ厚めうて美ゞい。此中
泣面とて軟むうらの。ゞメねくかあゞ衣裳ゞ脱ゞゞ上ゞ。
あれゞゞ週日乃ゞが。ゞ買うゞ帯のゞ。おめゆも知居ァ。
鶴助ゞ訳ゞ分ゞ百ゞ。ゞ流ゞ。ゞゞが。ゞ分ゞ系ゞ引
ゞ。ゞ高ゆ金ゞ入ゞりゞうら。ゞ手換ゞて。ゞれゞ。ゞァ

一そくさうく。アノ形チヌの学ろ〳〵さうよ。めらろアもめ〳〵丸角ご
つら物がめ〳〵ぞう魅ろる。めの帯と。かくめぐ衣装と。化亜行
一枚ス。とりつぐ結縮緬で裾丸しぐ。一枚ぐ引逆しぐ胴
裏ア江指の出特しい奴よ。国性ふと芝居と。めれぐ妹乃
吸へ聟の寸ろ射と。メッメ二枚しきやアお陸と。稲くきて
居ろろぶ。なんぐ付稲へと云ても彼足ぐ物へあらうス。そろと
まんじぐ表ぐ番とくどりて。舌こ枚とお同ふうけこんス。亜お
五日ばろりるてろぶなさうとりつ者ぐ。ろめで一月ゆなろぶ

猫糞さ。ナントめんまろ連入ぐ稲くぢやアぐ稲くの二〳〵ひどくらうェ
〳〵ひどくこうちも同ド蔡紳さまぐアトゆ〳〵りくめとまり油で
の絞入めいびらうどの絞付きもろらぐろうきげてきぐろうアとこれ
めくめくさう舌きぐろくくびげしやくまくちやと化くくとして高慢と廻くく素繞指南の先生
そのくせ年象さうく矢舌滑くく社盟とうきめつめてやうやく五六年ろまるる負書生とろくえくろう残念
蹴子鷺とりる古風ろる口癖ゆり生国ハいぐれ代田舎孔糞〳〵どうぐ主人
の者拓学の同四五年ゆりれど江アのとくひちやく
風ま起き夜ろ麻てかもぐりめぐの〳〵やこれハ先生さん。お早う
ございます。先生とりそろるゆげぬきとる〳〵おれハ清ろ見と楽ひ
とと先生さんと拓とりけくらも
年ごろら早く起る氣もろるぐ。家鹿の乃ま起さとこ。

やめうけてくどうもうるくねん「茄六が酒までも酔てまや」
とろう子「此男の伯とらう。嵐が酒よ酔てたまるりのうつくし
び」「へエ。うちハ又筋向の茄六が。例の十酔であるけこうと
ある。そひ年た「何さ。家鹿とう嵐の異名さ「へエ。嵐ゑも表徳
がおぜんぜとろう子「表徳うハ表徳うぬが。社君ぞの家鬼ぞのと
種く異名がある「左官ぞの袋ぞのと生けるも
ちぐさ。めうが袋人穴と明ちゃア左衣さうぎぞ「べらぼう
だまうん居う「アイトへうんでい居と「獨居して居ると嵐まうぐ

馬鹿よ仕とる。一屋無猫老者嵐走白昼と左侍ゑもあくる連。
あれを伽くどうもなうふぬ。王肅が逐嵐九でも欲いりのご。
「逐嵐九とう京借の本ゑ書てありやと虫さゑ買くやとうる
「馬鹿ゑいくあれゑ潰ゑ九ぞ「ホニさうぐうつけ「ドリヤ一ツ
別てやうう。トとーまのたうひゑ「コレ留モット茶居の服を
祐く掃ぷ。いけぞんぜくぐべくぐうぐいくふ。えても掃ゑしゃア
る「アイ「常千里惟留が掃ざる而ぐうぐア〜〜留い奥ゑ
凋一床ハ身と凋とこいふう髪結床の陸ゑハ奥の原を

たゝ。水でも汲がつゝ「まろのいもせ落さ。閔子騫めエ」ナニダ
閔子騫ざ。ア黄白ぬ冨さのりめざ。海が們まそでもれ公安じ
る。ハテ孫念閔子騫「ヲットまが一ッ閔子騫る「ハゝゝ」れ漢
とろとこーちかる「むろふのかゞよ張弦の峯のハア竹本祖太夫。鶴澤
びんゝゝ賢とろ。びゝゝをこうぬそろりしが
蟻鳳ハテ。ちろまろめがのの漢ぬ賈太夫なゞゝらふも有
うれど。日本ぬ寄しい尤秦の始皇帝が松よ太夫の官公ぞ
ゆゝ。ゆゝゞ竹ふ祖太夫の官をゆゝと古るゆもゝそゞー。扨又鶴澤
と金ゝ。蟻鳳と対とろうと心ハどうらふ意ぞぬらうた。コレ

主人ぬの書さりのハぬふとろるめざの「どれエ」「あれー」
「あれハ坐敷爭猫場さ。祖太夫ふ蟻鳳ぞうらタも三百
ぞうり這入ゆ「たゝ」「ブム」ふらゞぞもれ。ハテ。あれハ俗夏ふ疎い
ぞらうとと解せね。又今昔物語ー。何ぞ朝寐房。夢羅久
フット。ゝゞ林屋正藏ハテナ。風流八人藝ハア。ぬとハ所謂
きー季氏ぞ八俗のたぞひとうとろるナ。此季氏も魯国の太夫ぞて。
ろ。俗八舞列ゝ天子ハ八。諸侯ハ六。太夫ハ四。士ハ二。俗とる毎ぬ
人數甚俗數の如ー「モシ」夫ハ何の数でぞろ女エ「是ハ

八佾と云ふ舞の数さ「それぢやア又おつな事をしりやしさアハヽヽヽ。
あれハそんなむつかしい物ぢやアござりやせん八人並んで一く
ぐ八人の芸をする盲人さ「ハテナ盲人でも八人の業をする
ふしぎ。あれハ両の眼を持ちながら一人の行ひがたいとあきれねへ。ハテ
残念閔子騫「そりや二ッ目アハヽし「あの何ハどうかな。今と云
字のあてあるのハ「今あれハ今昔物語さ。朝寐房夢羅久
林屋正蔵こんちふの方が圓生さ。それも上する咄家さ。ト
まちてゐる所へでんがう一人どかどかと来てありて「お早いの「アイ其つぎが「まづ隠居さん

一ッある「よし「コレ主人咄家とハいふが、さてそのご「落語ハ
そる事合さ「今ハ笑話が。笑話ハ漢がおりしろん。山中一夕話
の事ハ閑巻一笑ともいふが。又各別ぞ。笑笑道人が
作らうとのごまで遊戯主人が笑林廣記和本でも
閑白駒が譯して閑に新語あろいを笑府のこぞひ。イヤ
どうも漢を遠ふさけのぞ。あの趣向ときやら事ハ数て
中りさいひとなるめのからのもとを日本に譯しある唐
鈔案してあるところがあるいがく学究のおちまでも
かも落咄がありますそうな子「あるともく日本の事をまるで

ゐい甚だ巧みなるのだ「唐ハどうだろう」と言ふ。
の出家いどれも上まづせん夢羅久が出たのハ真の出ぶせ
のう「さうさ。林屋がのもおりまえよ「おらア圓生がおもしく
くれ「始終とういの「夢羅久のハ地が社。どうも情合が
うまくいふぜん「可楽を一世一代を志ぢやア絶人の「まで
スケに出らア「助高屋がの一世一代を流が又まがつた
りのよ「こしく是下の一世一代とかハ誤ぶそれでハ重言なる
てめれハ一世一度といふのだ。出家くとハどの家の富さん

ばれがよいことろかう。出家とハ湯桶訓で出家と読む。
家ハ漢音ぶ。呉音でハ家とかうもとる。また儒学ハ漢字国学ハ
呉音でよむが又仏氏の方ハども呉音でよむ。ハ久分
笑話家とハ。或ハ落白おかしくを云ふ。落語家とも
いふがよいふ。出家とハイヤハヤ実ふ絶倒ハ。とでハ古方家
後世家ハ漢音二條家萬葉家ハ呉音で唱へる。ハ
ろと年ハねとハ。ハテ独念関子騫「そんなふ出家にあらく
笑話家といひやせうね「志し今のきらくハ家

の字と付くごろつき。紙屋ごろつきと手練家物と言く
合ふ者と食乱家。或ハ飽食家「酒とく飲ん者と食家と
云ちやァ。夏うるさごろつきうどの「えんがわ湯桶洗え酒と
りのと酒客。酒屋と酒家「ハァ酒家が酒家ごろつき豆腐
と豆腐家ごろの「提燈屋が提燈家で煮餅屋が煮
「馬かよく騎る人と馬家と云ちやァ腹とまごころう香ハ
人と香家と云ちやァ様ちゃの「さういろいろたくさんて
香とくぐ氣とさとうどの何ハ古んろれどまぐ氣と洒る香ハ

きくとうふが俗側で耳だらめて「香ハ鼻で嗅ぐごろいう
「さうさ耳ハ合ふとごろ稼ぐ「耳できくのまら香とまう
とうふが付けんど。鼻ごろかぐ方がうろうせ「さうよ鼻ハ
きいて耳で嗅う物うら。目が言て口で見物ごの「さう物
とはこで出痛じて天窓ハ踏貫の用心ごれ「こと足下乃
ちゃに言ふて論が干ないてこんさりのご足ごろう聖人
ももとうりうどろごろの想像わるたどうも度ごがさいアッア
夷狄ふ素してハ夷狄と行ひたて入て郷よちごろごア情

すい実に嘆息をするのさ。病人濁酒を呑ばつれも共に呑
稼だからね。〽実に痰咳でもするから濁酒は毒だらう子
それはおまへがまだ年若だからさ〽ぴん〽イヤサ。乃う対人にはかるめて〽モシぐら
ちつとお講釈をきいて人子〽ぴん〽イヤ〳〵愚人と論ずは無益なり。イヤ
あつぶだト稀なる遠て〽ぴん〽ヤ隠居さんお湯っ子〽いんきよ〽アイサ。朝湯を喜
筆で結だ。ヤこもぞ〳〵。湯へ這入るのふだまんでゐらいものと
を兎角気を負ぶせナ。イヤご免なさい。ト隠居が湯へ入る
此留がせあれを先にし稼人〽ぴん〽それだからでもおかへさん逆さ

物と其代り毎日家へお出なさいせん〽いんきよ〽だから〳〵おめへ我が身で
こちらは宿がないから何も急ぎやアしねへ。稼人我がのは剃るのだが
稼人〽留めて〽抜るのだ。子〽いんきよ〽ウンニヤ剃がくるのさ。此年まで寄るが〽代
剃がくるり。天窓と湯側したりするものゝゑんとてらぐ〽ト
うひねがうとのうをつける〽よく揉でお出なさせん〽いんきよ〽十二揉む毛があるもの〽ぴん〽揉屋の
毛があれば隠居して居る。稼人まてそ色々で目をするやうな
中よりは付替で揉くちやにするがヱテりんと叮嚀はよさそ
今朝も枕のとこに落てあつた〽膝付はそんなにして血くぐ

ちくとたくあんこと禪ぢやアめんめん〳〵「アラ〳〵」「ユウ今ゆくこ
ばく行んじんもてきさる屎凝ぶぶぜるア「ゼ」「ゼ」。イ。孔の字ふう
ハイ。放屁傍者ゥめいつぐ何をちつて。まぐ不思議ゥ店と物
通ちぶめつけ物よ「ヤユウ。傍者とふ奴い金紙性藏ゥ者
ぐとろくさら一回ふきるトンチキぐぜ。ちんぷんかんぷんぐどう
ろろろ。ちろ。ちろ。ちろ。ぐぐぐ。
仕ゥそ。近ゥ倚て後よれ扱めいあれませうゥ。閑帳場のしん
そぶ癪言とふ奉ゥに。高慢。慢ちきる熱ゆゆても。ぐぐぐ、
ヤ可柔の沢がつうふ行へス。めいつふぐりんの論語流の豊ゥ

ちぶぐとらふぐ「然ふらく「あいちちゅゥ孔子の道
ぐろろろとも行道へ切ゥるとねるゥ人醐迦のゥ「孔子の
道へおいて王子の道もろくちろ。ぷうゆやアちゅゥ「唐のと
ぐろろ揉ゥと思ゥとのろふ眸いのぐの悪い病しゅゥちゅ
ちゅうれゥぐめの人ゥ性物ぢやゥ。ゥて平人よりゥを不ぼぶぜ
「そゥてめのぎゅゥちゅう行へゥ。廊下へちろぶぐと出ゥ紙巾ぐ
「うきゅ行へめの人ゥ門ゥ居る附ゥとゥ人ゥ。古ゥい見紙
扱ゥて。湯ゥたちぐうぶう。藩釈ゥとゥるゥ「ゥ行ゥ。酒本飲ゥ夫

お門出ヨリテチン〳〵の「十分茶夫よ」「あのつふ清
釈をきやるやうに結〳〵物とちつふ沼〳〵ゆうぐらう「清釈いはう。
関羽ハ花宗を礼明牛房切の槍を捨〳〵後投入ことと
働きやるとる所ふ。遠方の方ふ使ひ代主ますたる西の兵ふ
誰ごぜうの日うやうぞや。槽三枚の大主者微服打〳〵ふ五枚
ごとうの兜武さつくと名殺し。給一ん半天股引「ヨット待
ふりやどうもとく〳〵ふ「らん」あやよ。あのへうほうとふ。
大うとそんなるやとぬうとごらう「ナニ」セリヤア軍主の清釈ぞ